

ファイブ・コグ検査 〈横浜市藤枝地域ケアプラザ・練馬区〉

軽度認知障害のスクリーニングと予防プログラムの認知的評価を目的とした検査。

手先の運動機能評価と記憶、注意、言語、視空間認知、思考の5つの認知領域を測定する。被験者は映写された教示を、反応用紙に回答する。出題課題は数字拾い、時計描写、言語流暢性、手がかり再生、文字位置照合などである。

HDS-R (Hasegawa's Dementia Scale-Revised)、長谷川式スケール 〈世羅町・駒ヶ根市〉

改定版長谷川式簡易知能評価尺度で、認知症の診断補助を目的としたスクリーニングテストである。質問項目は9項目と他の検査に比べ少なく、簡便で短時間で、かつ広範な対象者に適用できるという利点がある。HDS-Rの最高得点は30点であり、21点以上を健常高齢者、20点以下を認知症の疑いと判断する。

MMSE (Mini-Mental State Examination)・MMS (MMSE の略) 〈大府市・大樹町〉

簡便な認知機能検査で、認知機能の障害のスクリーニングを目的としている。HDS-Rとは異なり、11の項目の質問の中に4項目の動作性の検査が含まれていることが特徴である。MMSEの最高得点は30点であり、24点以上を健常高齢者、23点以下を認知症の疑いと判定する。からなり認知機能や記憶力を簡便に測定できる検査。

GDS (Geriatric Depression Scale) 〈佐用町〉

高齢者うつ評価尺度。GDSは、30項目の質問に対象者が「はい」、「いいえ」で答えるもので、身体症状の影に隠れた抑うつを明らかにするのに有効である。

立方体図形模写 〈佐用町〉

立方体模写は、視空間認知と構成行為を反映した非言語性の検査である。認知症のスクリーニングとして模写の状況から認知機能を簡便に把握できる検査法の一つとして広く使用されている。

ストループ・テスト (Stroop Test, color word conflict test) 〈駒ヶ根市〉

前頭前野機能をみる検査。適切な情報処理、行動制御ができるかどうかを評価する。具体的には4色の色で4種類の色の名前を書いてあるのですが、文字に惑わされずに、色だけを言っていくという検査。例えば、青い色で書かれた「みどり」という文字を「あお」と言えるかどうかで判断する。

FAST (Functional Assessment Staging) 〈佐用町〉

認知障害日常生活機能評価。日常生活動作能力（ADL）を総合的に評価し、アルツハイマー型認知症の重症度を7段階で判定する。家族・本人に確認しながら、実施することがポイントである。

	FAST stage	臨床診断	FAST における特徴
1	認知機能の障害なし	正常	主観的および客観的機能低下は認められない。
2	非常に軽度の認知機能の低下	年齢相応	物の置き忘れを訴える喚度困難
3	軽度の認知機能低下	境界状態	熟練を要する仕事の場面では機能低下が同僚によって認められる。新しい場所に旅行することは困難。
4	中等度の認知機能低下	軽度のアルツハイマー型痴呆	夕食に客を招く段取りをつけたり、家計を管理したり、買い物をしたりする程度の仕事でも支障をきたす。
5	やや高度の認知機能低下	中等度のアルツハイマー型痴呆	介助なしでは適切な洋服を選んで着ることができない。入浴させるときにもなんとかなだめすかして説得することが必要なこともある。
6	高度の認知機能低下	やや高度のアルツハイマー型痴呆	(a) 不適切に着衣
			(b) 入浴に介助を要する。入浴を嫌がる。
			(c) トイレの水を流せなくなる。
			(d) 尿失禁
			(e) 便失禁
7	非常に高度の認知機能低下	高度のアルツハイマー型痴呆	(a) 最大限約6語に限定された言語機能の低下
			(b) 理解しうる語はただ1つの単語となる
			(c) 歩行能力の低下
			(d) 着座能力の喪失
			(e) 笑う能力の喪失
			(f) 昏迷および昏睡

2 身体機能、口腔機能、日常生活評価関連

Borg 指数 〈浦添市〉

自覚的運動強度。運動負荷試験の際、被験者の自覚症状を定量的に把握する指数。この指数は主観的に一定の運動強度を見つけれ、運動時の脈拍数測定が不要などの利点がある。自覚的体感に基づいているため、運動時の再現性が高く、安全域の広い運動には手軽に用いられる。

安静時～運動時の概略心拍数を10で割った数値を、運動強度の指標とする。20段階に評価され、Borg「11～13」にあたる運動強度（体感）が適当な目安とされている。

TUG、T-U & G (Timed Up & Go Test)

〈飯豊町・木古内町・幌加内町・安芸太田町・世羅町・久万高原町〉

総合的な移動能力の指標。椅子に座っている状態から立ち上がり3m前方にあるコーンを回り、再び椅子に座るまでの時間を計る。

SF-36 (MOS Short-Form 36-Item Health Survey)、SF8 (Short-Form 8)

〈幌加内町・安芸太田町〉

健康関連 QOL（生活の質）を評価する尺度。前者は36項目、後者は簡易版の8項目。下記の8項目が下位尺度である。プログラム開始時と終了時に実施されることが多い。

なお、SF-36v2™ 日本語版はオンラインで入手することができます。使用するには、‘使用許可’ または ‘コマーシャルライセンス’ の取得が必要となる。（取得方法はこちら <http://www.sf-36.jp/>）

身体機能	P F (physical functioning)
心の健康	MH (mental health)
日常役割機能（身体）	R P (role-physical)
日常役割機能（精神）	R E (role-emotional)
体の痛み	B P (bodily pain)
全体的健康観	G H (general health perception)
活力	V T (vitality)
社会生活機能	S F (social functioning)

FR (Functional Reach)、ファンクショナルリーチ 〈飯豊町・世羅町〉

静的バランス能力の指標。ファンクショナルリーチは立った姿勢で両腕を挙げ、その指先を精一杯前方に伸ばした時の距離を3回計測する。

簡単な手順

1. 被検者を壁または黒板のような面に体のどちらかの側部が触れるように立たせる。
2. 壁側の肩関節を90度屈曲させて上肢が水平になるように前に伸ばしてもらう。
3. その上肢の指尖の位置を壁にマークする
4. 体を前傾させてできるだけ前方に指尖を伸ばす
5. その姿勢で再度指尖の位置をマークする
6. 最初のマークと二つ目のマークの水平距離を計測する
7. その水平距離 (cm) がテスト結果である

オーラルディアドコキネシス (oral diadochokinesis) 〈大樹町〉

構音器官の随意運動検査

舌、口唇、軟口蓋等の運動の速度や巧緻性を発音を用いて評価する。

実施手順例

1. 『パ』『タ』『カ』の発音を繰り返し発音させる。
2. 10秒間に発音した回数を鉛筆で紙に連打して記録。
3. 1秒あたりの回数を求める。
4. 事前・事後アセスメントの口腔機能の能力の変化を比較し評価する。

3 予防アセスメント

予防版 MDS-HC (Minimum Data Set-Home Care) 〈木古内町〉

予防版 MDS-HC は、オリジナル MDS-HC の予防版である。オリジナル版はアメリカ、ヨーロッパ、日本などの国際的な団体により開発された、在宅における長期ケアを必要としている利用者に対して、包括的なケアプランを作成するための指針である。在宅高齢者のアセスメントからケアプラン上の留意点、ケア目標が明確になってくる構造になっており247項目からなる。一方予防版は89項目と約3分の1の項目であり、予防訪問の際に使用される。

参考文献

- 1) 平井俊策監修、老年期認知症ナビゲーター、メディカルレビュー社、2006
- 2) 矢富直美、認知症予防活動の効果評価と課題、老年社会科学、27（1）、2005
- 3) 山田ゆかり、池上直己、予防訪問アセスメント表の開発、日本公衆誌51（6）、2003
- 4) Reisberg B, et al. : Ann Acad Sci, 435 : 481, 1984
- 5) SF-36ホームページ、<http://www.sf-36.jp/>

執筆者一覧（順不同 所属は平成21年3月現在）

横浜市藤棚地域ケアプラザ 内野喜和子
大府市健康福祉部健康推進課 島田真希、近藤麻紀子、加藤美央、大野桂代子
浦添市福祉保健部地域支援課 宮城真士、大城ゆかり
近江八幡市高齢、障がい生活支援センター 谷口茂樹
練馬区福祉部在宅支援課認知症対策係 木村たえ子
西栗倉村地域包括支援センター 中野治
安平町介護保健課・安平町地域包括支援センター 白石喜美
湯沢市地域包括支援センター 佐藤久美子、鈴木紀子
飯豊町地域包括支援センター 志田庸子
新郷村住民生活課厚生グループ、新郷村地域包括支援センター 坂根光代
北竜町地域包括支援センター 南祐美子、林範恵
木古内町保健福祉課介護福祉グループ・地域包括支援センター 加藤直美
幌加内町保健福祉課 小野田直子
社会福祉法人東栄町社会福祉協議会 尾崎真由美
社会福祉法人太地町社会福祉協議会 坂本尚世
安芸太田町地域包括支援センター 加井裕子、栗栖敏枝、河野乃富子、野崎雪絵
久万高原町立病院、久万高原町地域包括支援センター 新岡誠、岩本久美
西会津町健康福祉課福祉介護係、にしあいづ地域包括支援センター 三留昭生、田崎美記子
大樹町地域包括支援センター 大野真由美
北茨城市高齢福祉課、北茨城市地域包括支援センター 安島香津子
斜里町保健福祉部地域支援センター介護予防係 鈴木朋子
頸城地域包括支援センター 梅津勝江、和久井美恵子、横山諒太
世羅町地域包括支援センター 宮田貴子
佐用町保健課介護予防係 松本佳子
駒ヶ根市地域包括支援センター、ふれあい地域包括支援センター 行田真唯、山口智子
社会福祉法人志摩市社会福祉協議会 植村源文
船橋あんしんすこやかセンター 小林由紀子、伊藤光世、飯野伸子、加納美津子
愛荘町地域包括支援センター 酒井紀子、小林統子

飯山市地域包括支援センター 常田徳子、福沢さつき、伊東ゆりか
社会福祉法人平生町社会福祉協議会 福嶋美奈子
鯨川村住民福祉課 鈴木芳子
八幡浜市保健センター介護予防係 二宮恭子
医療法人社団東北福祉会せんだんの丘ぶらす 山本洋史

研究委員一覧（順不同）

長谷川京子 社会福祉法人福島県社会福祉事業団事務局サービス向上部サービス事業課
課長
小野田直子 幌加内町保健福祉課あんしん介護係 主幹
北村 康栄 幌加内町保健福祉課あんしん介護係 主査
杉田尚緒子 社会福祉法人八幡浜市社会福祉協議会 社会福祉主事
二宮 恭子 八幡浜市保健センター介護予防係 係長
鈴木 芳子 鯨川村住民福祉課 専門保健師
菊地 貞子 社会福祉法人鯨川村社会福祉協議会 鯨川村地域包括支援センター
福嶋美奈子 社会福祉法人平生町社会福祉協議会 事務局長
木本 潤 社会福祉法人平生町社会福祉協議会 企画総務部長
芳谷 伸二 広島県介護予防研修相談センター 所長
土井 勝幸 医療法人社団東北福祉会介護老人保健施設せんだんの丘 施設長
山本 洋史 医療法人社団東北福祉会せんだんの丘ぶらす
岩崎 丸 社会福祉法人高知県社会福祉協議会 介護普及相談課課長
池田 武俊 大牟田市保健福祉部長寿社会推進課 参事

加藤 伸司 認知症介護研究・研修仙台センター センター長
阿部 哲也 認知症介護研究・研修仙台センター 研究・研修部長
矢吹 知之 認知症介護研究・研修仙台センター 主任研修研究員
吉川 悠貴 認知症介護研究・研修仙台センター 専任研究員

平成20年度 老人保健健康増進等事業
地域特性に応じた効果的な認知症および介護予防活動促進に関する研究

**地域特性に応じた33の介護予防事業の実践
特定高齢者施策・一般高齢者施策活動事例集**

平成21年10月1日

発行所 認知症介護研究・研修仙台センター
〒989-3201
仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149-1
TEL 022-303-7550 FAX 022-303-7570

発行者 認知症介護研究・研修仙台センター
センター長 加藤伸司

印刷 株式会社 ホクトコーポレーション
〒989-3124
仙台市青葉区上愛子字堀切1-13
TEL 022-391-5661(代) FAX 022-391-5664
